Weekly ウィークリー オイル マーケット レビュー
Oil Market Review 19第31号
2019年（令和元年） 11月15日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所 石油情報センター
電 話 （03）3534-7411（代）
F A X （03）3534-7422
〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ11階
ホームページ https://oil-info.ieej.or.jp

■ 概況

10/31~11/6のNYMEX・WTIは、54.18～57.23ドルの範囲で推移した。

11月7日は、中国商務省が米中の追加関税の段階的撤廃で合意したと発表、世界経済の好転の期待感から、反発した。また、前日のWSJ紙のサウジがアラムコIPO発表を前にOPEC各国に一層の減産を呼びかけたとの報道も上昇要因となった。12月限終値は前日比0.80ドル高の57.15ドル。

週末11月8日は、トランプ大統領が前日の中国の発表を否定、売りが先行したが、ポジション調整の買戻しがあり、結局、わずかながら続伸した。また、ベーカーヒューズ社発表の米国稼動石油掘削機は684基で前週比7基減と3週連続の減少も上昇要因となった。12月限終値は前日比0.09ドル高の57.24ドル。

週明け11日は、米中貿易協議の先行き不透明感が広がり、反落した。ただ、WTI先物原油の受け渡し場所クッシングの原油在庫量が前週比120万バレル減少したとの民間調査の報告が下値を支えた。12月限終値は前週末比0.38ドル安の56.86ドル。

12日は、トランプ大統領がニューヨークで通商・経済問題について、講演を行ったが、新味を欠く内容であったことから、小幅に続落した。ただ、米中協議への期待感、ゴールドマンサックスの2020年の米国石油生産予想の下方修正があり、下値は重かった。12月限終値は前日末比0.06ドル安の56.80ドル。

13日は、連邦準備制度理事会（FRB）のパウエル議長の議会証言を受けて、米国経済の過度な警戒感が後退し、反発した。12月限の終値は前日比0.32ドル高の57.12ドル。

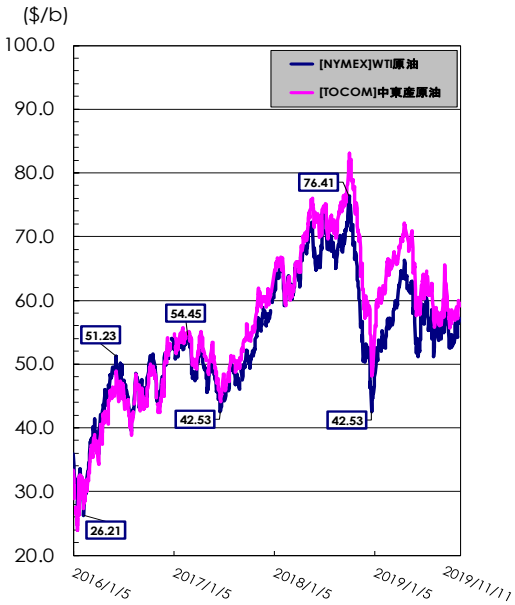
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（12月渡し）は10月31日～11月6日の間58.50～61.40ドルの範囲で推移した。11月7日60.50ドル、8日60.80ドル、11日60.90ドル、12日61.80ドル、13日61.30ドルで推移した。

為替は10月31日～6日の間108.03～109.09円の範囲で推移した。11月7日108.94円、8日109.39円、11日109.16円、12日109.17円、13日108.93円で推移した。

財務省が11月8日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、10月中旬の原油輸入平均CIF価格は、44,138円/klで、前旬比378円高、ドル建て65.24ドルで前旬比0.72ドル高。為替レートは1ドル/107.55円だった。

そのような中で、11月11日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.1円の値上がり、軽は同0.1円の値上がり、灯油は同横ばい（18㍑ベース）だった。ガソリン・軽油が2週連続の値上がり、灯油は3週連続の横ばいだった。この週（11月第2週）の原油コストは値上がりで、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、全社1.0円の値上げとなった。

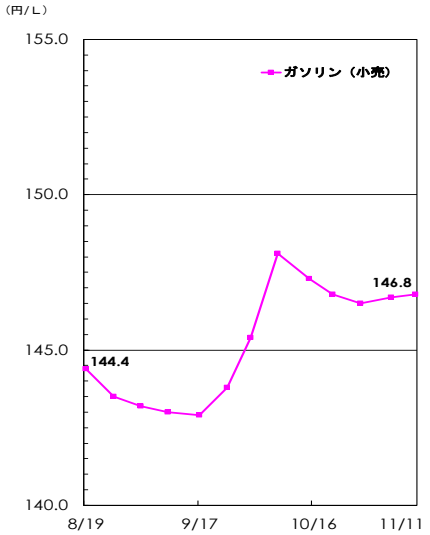
原油			今週		前週比	前年比
需給	原油処理量	（千kl）	11/3 ～ 11/9	3,307	▲ 52	▼ －
	トッパー稼働率	（%）	〃	84.4	▲ 1.3	▼ －
	原油在庫量	（千kl）	11/9	12,113	▲ 114	▼ －
価格	中東産原油(TOCOM)	（$/bbl）	11/11	59.37	▼ -0.25	▼ -10.7
	WTI原油（NYMEX）	（$/bbl）	11/11	56.86	▲ 0.32	▼ -3.1
	原油ＣＩＦ単価	（$/bbl）	10月中旬	65.24	▲ 0.72	▼ -13.95
	①原油CIF単価	（¥/kl）	〃	44,138	▲ 378	▼ -12,096
	②ドル換算レート	（¥/$）	〃	107.55	▲ 0.29	▲ 5.35
	外国為替ＴＴＳレート	（¥/$）	11/11	110.16	▼ -0.37	▲ 4.78



（単位：千kl、円/㍑）

ガソリン			今週		前週比	前年比
需給	生産		11/3 ～ 11/9	951	▲ 29	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	819	▲ 82	▼ –
	輸出		〃	104	▼ -68	▲ –
	在庫		11/9	1,546	▲ 28	▼ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	11/5 ～ 11/11	58.4	▲ 0.6	▼ -8.3
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/5 ～ 11/11	54.6	▲ 0.2	▼ -7.6
		(TOCOM/中部)	11/11	56.0	▲ 0.5	▼ -6.9
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	11/11	146.8	▲ 0.1	▼ -10.7

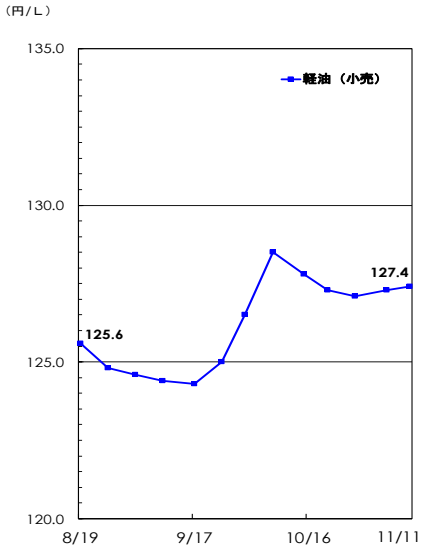
※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㍑）

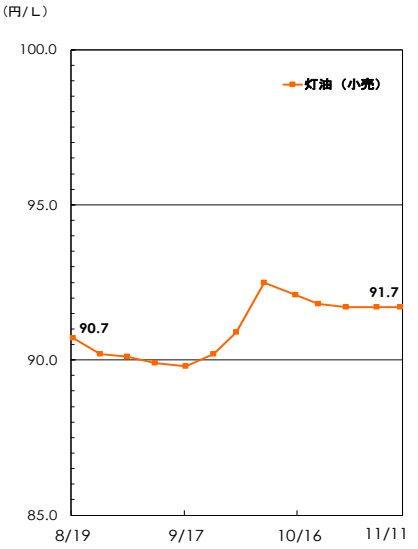
軽油			今週		前週比	前年比
需給	生産		11/3 ～ 11/9	784	▼ -14	▲ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	597	▼ -35	▼ –
	輸出		〃	147	▼ -2	▲ –
	在庫		11/9	1,400	▲ 40	▼ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	11/5 ～ 11/11	60.9	▲ 0.2	▼ -9.0
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/5 ～ 11/11	63.3	▲ 1.5	▼ -7.9
		(TOCOM/中部)	11/11	–	–	–
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	11/11	127.4	▲ 0.1	▼ -9.0

※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㍑）

灯油			今週		前週比	前年比
需給	生産		11/3 ～ 11/9	282	▲ 60	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	228	▲ 47	▲ –
	輸出		〃	21	▲ 1	▼ –
	在庫		11/9	2,850	▲ 32	▲ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	11/5 ～ 11/11	60.6	▲ 0.6	▼ -8.3
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/5 ～ 11/11	59.0	▲ 1.0	▼ -8.4
		(TOCOM/中部)	11/11	61.5	▲ 1.5	▼ -7.0
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	11/11	91.7	➡ 0.0	▼ -7.1



■ 関連情報

1　海外/原油

11月13日のNYMEX市場WTI原油は、連邦準備制度理事会(FRB)のパウエル議長の議会証言を受けて、米国経済の過度な警戒感が後退、さらに、OPECのバーキンド事務局長が、2020年の米国シェールオイルの生産の伸びが従来予想を大きく下回るとの発言があり、反発した。12月限の終値は前日比0.32ドル高の57.12ドル、1月限の終値は前日比0.35ドル高の57.20ドル。米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報は、11日の退役軍人の日の影響で、14日の発表予定。

EIAによると、11月11日時点のガソリンの小売価格は、前週比1.0セント値上がりの1ガロン2.615ドル(76.0円/㍑)、ディーゼルは同1.1セント値上がりの3.073ドル(89.3円/㍑)となった。ガソリンは2週連続の値上がり、ディーゼルは2週ぶりの値上がりだった。

2　国内/製品需給　（1）出荷

石連週報によれば、2019年11月3日～11月9日に休止したトッパー能力は28.5万バレル/日で、前週に対して1.4万バレル/日減少した(全処理能力は351.9万バレル/日)。原油処理量は330.7万klと、前週に比べ5.2万kl増加。前年に対しては13.8万klの減少。トッパー稼働率は84.4%と前週に対して1.3ポイントの増加、前年に対しては3.6ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてガソリン、灯油、A重油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/3.1%増、ジェット/1.9%減、灯油/27.2%増、軽油/1.8%減、A重油/5.1%増、C重油/22.6%減。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比0.0万kl減)。軽油の輸出は14.7万kl(前週比0.2万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではジェット、軽油、C重油が減少となり、その他の油種で増加となった。前年比ではガソリン、軽油、A重油、C重油が減少となり、その他の油種で増加となった。ガソリンの出荷は81.9万 kl(対前週11.1%増)と2週振りで増加となり、12週連続で100万klを下回った。ジェット4.4万kl(対前週49.0%減)、灯油22.8万kl(対前週26.4%増)、軽油59.7万kl(対前週5.4%減)、A重油18.3万kl(対前週15.2%増)、C重油12.3万kl(対前週45.5%減)。

（単位：千KL）

	今週 (11/3 ~ 11/9)	前週 (10/27 ~ 11/2)	前週比	
ガソリン	819	737	▲ 82	(11%)
ジェット燃料	44	86	▼ -42	(-49%)
灯油	228	181	▲ 47	(26%)
軽油	597	632	▼ -35	(-6%)
A重油	183	159	▲ 24	(15%)
C重油	123	225	▼ -102	(-45%)
合　計	1,994	2,020	▼ -26	(-1%)

※今週出荷量＝（前週末在庫＋今週生産＋今週輸入）－（今週輸出＋今週末在庫）

2　国内/製品需給　（2）在庫

11月9日時点の在庫は、全ての油種で積み増しとなった。前年に対しては、ジェット、灯油、C重油が積み増しになり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは154.6万kl、前週差2.8万kl増。前年に対しては24.2万kl少ない。

灯油は285.0万kl、前週差3.2kl増。前年に対しては4.5万kl多い。

軽油は140.0万kl、前週差4.0万kl増。前年に対しては8.2万kl少ない。

A重油は74.0万kl、前週差0.4万kl増。前年に対しては5.9万kl少ない。

C重油は201.7万kl、前週差2.9万kl増。前年に対しては1.7万kl多い。

（単位：千KL）

	今週 (11/9)	前週 (11/2)	前週比	
ガソリン	1,546	1,518	▲ 28	(2%)
ジェット燃料	950	868	▲ 82	(9%)
灯油	2,850	2,818	▲ 32	(1%)
軽油	1,400	1,360	▲ 40	(3%)
A重油	740	736	▲ 4	(1%)
C重油	2,017	1,988	▲ 29	(1%)
合　計	9,503	9,288	▲ 215	(2.3%)

3　国内/製品卸売価格　（1）元売会社 仕切価格改定動向

11月5日～11日の原油価格は、前週比で値上がりし、為替レートはわずかに円安で、原油コストは値上がりしたものと見られる。

陸上スポット価格は、11月5日～11日の間、ガソリン111～112円台で値上がり後横ばい、軽油60円台で横ばい、灯油60円台でわずかに値上がりして推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン113円台でわずかに値上がり、軽油63円台でわずかに値上がり、灯油58円台でわずかに値下がりして推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン108円台でわずかに値下がり、軽油62～63円台でわずかに値上がり、灯油58～59円台で値上がりして推移した。

次週の元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、全社1.0円の値上がりとなった。

3　国内/製品卸売価格　（2）業転価格・先物価格動向

11月5日～11日の製品スポット市況は、10月30日～11月4日平均と比べ、全ての油種・取引で値上がりした。

直近の陸上スポット価格（11/5～11/11千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値）は、前週比で、ガソリンは0.6円の値上がり、灯油は0.6円の値上がり、軽油は0.2円の値上がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、前週比で、ガソリンは0.6円の値上がり、灯油は0.8円の値上がり、軽油は0.5円の値上がりだった。

先物価格は、前週比で、ガソリンが0.2円の値上がり、灯油は1.0円の値上がり、軽油は1.5円の値上がりだった。

11月第3週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社1.0円の値上がりとなった。

（RIM）　（単位：円/㌔㍑）

[陸上ローリー 4地区平均]		今週　(11/5 ~ 11/11)	前週 (10/29 ~ 11/4)	前週比
スポット価格	レギュラー	58.4	57.8	▲ 0.6
	灯油	60.6	60.0	▲ 0.6
	軽油	60.9	60.7	▲ 0.2

（TOCOM）　（単位：円/㌔㍑）

[期近物/終値〔平均〕]		今週　(11/5 ~ 11/11)	前週 (10/29 ~ 11/4)	前週比
先物価格	レギュラー	54.6	54.4	▲ 0.2
	灯油	59.0	58.0	▲ 1.0
	軽油	63.3	61.8	▲ 1.5

※上記価格は税抜き価格

参考値　（11/5～11/11実績値）　（単位：円/㌔㍑）

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 0.6	▲ 0.2	▲ 0.4
灯油	▲ 0.6	▲ 1.0	▲ 0.8
軽油	▲ 0.2	▲ 1.5	▲ 0.8
A重油	▲ 0.3		

（出所）現物：RIM社陸上ローリー4地区平均価格
（千葉・川崎・中京・阪神）
先物：TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4　国内/製品小売価格

11月11日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円高の146.8円、軽油は同0.1円高の127.4円、灯油は18㌔㍑ベースで同横ばいの1,650円（1㌔㍑ベースでは同横ばいの91.7円）。ガソリン・軽油は、2週連続の値上がりで、灯油は3週連続の横ばいだった。都道府県別には、値上がりが19道県、横ばいが11都県、値下がりが17府県となった。全国最安値は徳島県の140.6円（前週比0.3円高）、その次に安いのは、鳥取県・埼玉県の141.9円（同0.4円高・0.2円高）、最高値は長崎県の156.9円（同0.4円安）。最も値上がりしたのは0.6円高の北海道（147.9円）と愛知県（144.1円）、横ばいは高知県等11都県、最も値下がりしたのは0.8円安の京都府（149.7円）だった。

先週の原油コストは値下がりしたが、今週適用の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社据え置きとなった。今週は、原油価格は値上がりし、為替レートもわずかに円安で、原油コストは値上がりした。次週適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社1.0円の値上がりとなった。次週（11月18日）のガソリン・灯油の小売価格は、小幅な値上がりが予想される。

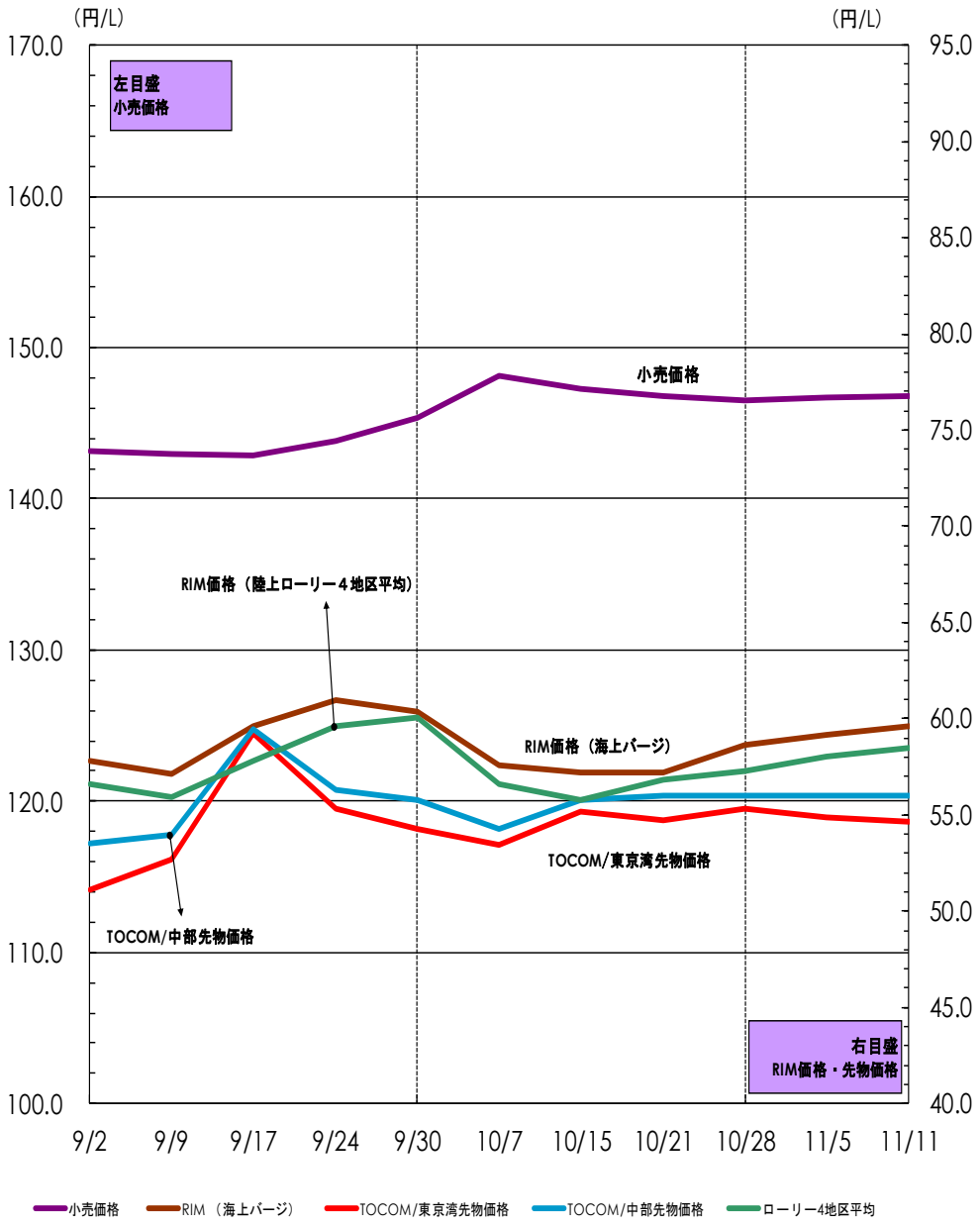
（単位：円/㌔㍑）

（資エ庁公表）[週動向]		今週　(11/11)	前週　(11/5)	前週比	直近高値	
小売価格	レギュラー	146.8	146.7	▲ 0.1	08/8/4	185.1
	灯油	91.7	91.7	➡ 0.0	08/8/11	132.1
	軽油	127.4	127.3	▲ 0.1	08/8/4	167.4

※ 現金一般価格の全国平均値（消費税込み）
07年4月以降 2,000店舗を対象。
直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2019/9/2　～　2019/11/11)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ（https://oil-info.ieej.or.jp）にも掲載しています。
次回（2019第32号）の公表は、11/22（金）14:00 です。

「セルフSS出店状況」（平成31年3月末現在）は、7月31日（水）14：00に公表しました。当センターのホームページをご覧下さい。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層（特に給油所経営に携わる方々）から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈 石連週報 〉
石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈 WTI原油、中東産原油 〉
WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange：NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所（The Tokyo Commodity Exchange：TOCOM）中東産原油の期近物・終値を採用。　※「二番限（翌月限）」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】
元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。
元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈 RIM業転 〉
国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社（RIM）「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用（いわゆる4RIM価格とは異なる）。

⑤【国内製品・先物価格】〈 TOCOM〉
TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

⑥【国内製品・小売価格】〈 週動向 調査〉
約2, 000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資エ庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14：00に公表（資源エネルギー庁HPに掲載）。